

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100501		
法人名	宮崎医療生活協同組合		
事業所名	グループホームおおつかの家		
所在地	宮崎市大塚町西ノ後3435番地1		
自己評価作成日	平成25年11月4日	評価結果市町村受理日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=4590100501-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=4590100501-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年11月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

在宅で生活できていた時のように家庭的な雰囲気を大切に、穏やかにゆったりした気持ちで日々の生活が送れるように支援している。自治会に加入し、地域活動に参加、時に利用者様と参加し、地域に根差した施設づくりに取り組んでいる。開かれた施設を目指し、誰もが立ち寄れるような施設をめざしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは住宅街にあり、左隣は同法人の事業所、右隣は民家になっている。すぐ前は道路で車が多く行き来している。一歩中に入ると、明るく広いリビングに利用者と職員の姿があり、交わす会話も穏やかで、全員が家族の一員のように見える。食事の準備も、調理室に入って作る人、食器を並べる人、台をふく人、はしやタオルを出す人、そして盛りつける人など、利用者の持てる機能や生活歴を知った上での支援がなされている。家族の相談にも快く応じ、調査日にも利用者の横で一緒に食事をされる家族の姿があった。毎日、利用者で清掃するホームはどこも美しく、ホームが目指している誰もが立ち寄りたくなるような環境づくりの努力を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より一貫した内容を職員全体で確認し振り返り、日々の利用者との関わりの中で実践につなげている。	皆で共有できるよう頭文字がホームのネームになるよう工夫して理念をつくり、毎日の実践につなげている。月1回の例会で話し合い確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に継続加入しており、今年も地区の夏祭りや清掃活動に利用者と共に参加した。普段より挨拶を励行し、ご近所の住人の方から野菜や洗剤等の寄付があったり、施設の夏祭りに参加された方もあり、少しずつではあるが交流ができていく。	自治会加入を生かし、地域の行事に参加したり、ホームに招待したり、野菜や花植えを教わったりするなどして、日常的に交流の機会を取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年認知症ケアについて地域貢献できるような活動はできなかったが、小規模との合同での夏祭りを開催し、ご近所の住人の方に案内し、施設のアピールができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年昨年のアドバイスを活かし、運営推進会議を会議のみにせず6回中2回を夏祭りと防災訓練を兼ねて実施した。会議の中では運営状況やヒヤリハット報告を行い、意見や助言をもらい、改善に活かしている。職員の参加ができず、具体的な周知が不十分であった。	2か月に1回開催し、ホームの報告を丁寧に行っている。家族代表者、地域包括支援センター職員、民生委員2名の参加がある。	ホームの報告だけに終わることなく、地域代表者にも参加していただき、地域のことを聞くことで、利用者のケアに生かせるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や社会福祉課との普段からの連携や地域包括支援センターとは利用者についての相談やケアマネの勉強会に参加し、連携をとっている。宮崎市社協とはボランティア事業に参加し、ボランティアの受け入れを行っている。	わからないことがある時は、市に直接聞いて取り組み方を教わったり、市の主催するケアマネジャー研修会等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の学習会等に参加し、職員間で身体拘束をしない事を原則にケアを提供するように心がけている。しかし、転落予防の為に床にマットを敷いたり、離設予防の為に日中、居室のサッシの鍵を実施している。基準についての具体性について学習をしていく。	職員間で十分な話し合いを行い、なぜ拘束が禁止されているのかを理解できるよう取り組んでいる。研修にも参加している。日中、鍵や4点柵の開放、ケアマット除去にも全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	宮崎県高齢者虐待防止研修会や法人内の研修に参加。利用者様の尊厳や人権を守るケアを提供するように、職員一同心がけている。		

宮崎県宮崎市 グループホームおおつかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	宮崎県権利擁護推進要請研修に管理者が参加。学習した事を帰り報告し、職員の認識を一致させ、ケアに活かすようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に契約書・重要事項説明書・重症時の指針について説明し、不安な事や疑問点には遠慮なく質問されるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者や御家族からの要望は多く、意向に添えるようにカンファレンスで話し合い職員全員で実践できるようにしている。また、運営推進会議にご家族に交代で参加していただき、意見を伺っている。	本人、家族からの意見を十分聞き、カンファレンスを行い工夫している。評価当日も家族が来訪され、食事の件、ケアの対応についての意見や要望が出されている。	対応が困難な場合は上司に報告し、改善策を文書にして対応するなど、運営に反映させてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催し、意見や提案を出し合って改善策を検討。職員各自が運営に携わっているという自覚を認識できている。また、普段より職員の意見をくみ取り、職員全体で認識できるようにしている。	月1回の会議のみでなく、日常のケアに関しても職員間で、会話ノートを使っている。例えば、布団干しの時間を何時からの勤務時間で行うのが無理なくできるかなど、何事にも真剣に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを設けており、目標を持ってステップアップできるように支援している。今年には介護福祉士に1名が合格・介護士による吸引研修・認知症実践者研修を各1名が受講した。また、労働環境として職員への処遇改善を実施できるように、法人全体で取り組みたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年には新卒の職員を1名受け入れた。プリセプターを決め、年間計画に従い指導・助言、更に全職員が育てるという認識で対応している為、相談しやすいという意見があった。研修は法人内・外問わず希望に応じて参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の加入を継続しており、研修に参加、地区のケアマネの勉強会に参加し交流し、意見交換を行っているが、職員全員の体験にはできなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年3名の新規入居者がいた。事前にご本人にお会いし、意向の確認や入所前に施設見学をしてもらった。入居にはならなかったが、試用での泊まりも経験していただいた方が1名いた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までにご家族の思いや願いを伺い対応、一定家族との信頼関係ができるまでは密に連絡を取るようになっている。入居後は担当介護士を中心に、より良い関係を持つようにアプローチし、情報については職員全体で共有するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から得られた情報を基に、生活環境をなるべく変化させないように気持ちを汲み取り、何を必要としているのかを理解しようとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという一方的な立場にならないように、人生の先輩としての尊厳を持ち、言葉遣いや行動に配慮している。利用者のできる事を尊重し、できない事を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1回ニュースを発行し、担当職員からのコメントを記載し、近況を報告している。ご家族の面会時には、管理者や職員から近況を報告したり、緊急時は管理者よりTEL報告を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所が特別な物にならないように、馴染みの物があれば持参していただいている。また、ご家族との外出で美容室に行かれたりする。友人や親戚の方の面会もある。	本人・家族と話し合い、気に入った物や欲しい物を飾ったり置いたりしている。近所や幼なじみの人が、本人の家族と一緒に来訪され、外出を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所時は気の合いそうな方同士が接点を持つように支援するが、徐々に利用者同士で関わりができるように見守っている。しかし、時に気にそぐわない関係となりそうな場合は、ホールの席を考慮したり、仲介に入り対応している。		

宮崎県宮崎市 グループホームおおつかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度終了された方は死亡2名、入院1名、他施設に入所1名の計4名であった。入院や他施設への入所時は、介護情報書を提供した。また、お見舞いや施設への訪問を実施。死亡後、グリーフケアを1名は行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を普段のケアや会話より把握するが、なかなか文章にする事は困難ではあるが、昨年に比べD4シートの分析の部分の記載を職員全員が取り組み、記載できつつある。	管理者、職員は、人は皆それぞれであるとの思いを持ち、本人や家族との話し合いを十分行い、出された意見に対応している。対応が難しい時は、本部に連絡をして回答を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に行う情報収集は十分でなく、利用者や家族との普段のケアや会話の中で把握するように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課や一日の過ごし方については、入所前に確認している。入所後、できる事を見極め、少しでも実施でき役に立っているとの自覚が持てるように支援している。利用者により体力的に差があり、体力のある利用者にとっては十分な支援ができていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員協働で行う事を目標にしていたが、十分にはできなかった。担当者会議もケアマネと家族のみで終わってしまった。プラン作成も遅れがちであった。只、日々の変化に伴う対応はカンファレンスを行い修正し実施できたが、プランの変更には至らなかった。	利用者を中心にした介護計画は、家族の意見も取り入れて作成しているが、モニタリングが充分ではない。	利用者、家族本意の介護計画は日々のケアがプラン通りに実施されているかモニタリングし、3か月に1回のプラン見直しをしていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙と使用しているD4シートの記入は、観察事項・本人やご家族の言った言葉等の記載が職員全員意識しており多くなっている。また、分析的に判断され記載でき、職員間で情報として共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年は器具を使ったマッサージに家族が来所されたり、訪問マッサージや鍼を利用される方、鍼治療に通院される方といった。		

宮崎県宮崎市 グループホームおおつかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者とスーパーに買い物に出かけたり、博物館に見学に出かけたり、近くの公園に花見に外出した。ボランティアの方の協力も得られた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族の希望に応じ、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医とは介護情報書を毎回提供し、返書をいただく場合もある。往診は内科・歯科をお願いしている。家族での受診介助が困難時は支援している。	本人、家族の意見に沿って、掛かりつけ医を決め、意向に合わせた医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診利用者は看護師の訪問を隔週で受けており、状況を報告している。緊急時は電話での連絡を実施している。今年は訪問看護STの利用が1件あり、看取りを行った。法人内の看護師研修を1名受け入れた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や退院時のカンファレンスに参加し情報を得ている。また、入院中にも管理者・職員問わず状態確認の為、頻回に面会したり、ご家族に状況を確認している。面会時の様子は記録に残し、面会者のサインも残すようにした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に指針の説明は実施し、署名を貰っている。今年度は2名の方が施設での看取りを希望され実施した。お二人ともご家族の覚悟にゆるぎがなく、最期まで穏やかに生活を送る事ができ、ご家族に看取られながら死を迎えられた。医療との連携も日中という事もありスムーズであった。	入居時に、本人・家族と話し合っ、重度化や終末期に向けた方針決めを行っている。2名の看取りに取り組み、調査日にも1人の利用者に対して、自然なケアで対応している様子が見られた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応一覧表を利用者に応じ作成し、見やすい所に置いて対応している。定期的な訓練はできなかったが、法人内の学習会に参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、機器点検と防災訓練を実施している。今年は日中の火災を想定し、運営推進会議の委員の方の参加も得て実施した。	年に2回防災訓練を行い、夜間を設定した訓練も、日中実施している。カンパンやおむつ、水など、わずかだが準備している。	グループホームが住宅街にあるので、近隣住民と災害対策についての話し合いが必要と思われる。今後、緊急時に備えた早めの取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を重んじ、思いや願いを大切にし、言葉遣いや対応に注意をするように努力している。職員同士気が付いたら注意するようにしている。	排せつや入浴への呼びかけには、特に配慮を行い、何気ない雰囲気や誘導したり、笑顔で語りかけるよう対応されている。職員一人ひとりが、人格を尊重した態度で優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉や行動が何を意味しているのか、シグナルなのかを見逃さないように職員同士で考え対応している。また、自己選択や決定ができる利用者には、実施できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケア者が管理しないように、利用者一人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、選択できる利用者は職員と相談して服を選んでいる。爪切り・散髪・化粧・髭剃りなど、清潔が保持できるように支援し、その人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて食材切り・盛り付け・味見・片付けなどを職員と一緒に実施している。それぞれが役割と認識されている。メニューに季節感を活かしたり、メニューと一緒に考えたりしている。	利用者のこれまでの生活歴等を見て、食事に関する一連の役割をお願いし、持てる力を発揮してもらっている。お茶を飲むための器は、一人ひとり気に入った物を選んでもらい、より楽しんで水分がとれるように工夫している。メニューは、利用者から食べたいものを聞きながら、季節に合ったものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や状況の把握を行い、摂取困難時は形態を工夫したり、代替の補助食品を考慮したりしている。また、体重を目安として利用者にも目標体重を知らせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・うがい・義歯洗浄を実施。義歯消毒は週3回実施。時間がかかってもできるだけ自力で実施して頂くように支援。うがいのできない方は、口腔内清拭を実施している。		

宮崎県宮崎市 グループホームおおつかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行ったり、尿意や便意がある時には短時間であっても誘導する。日中は全員トイレでの排泄を実施するようにしている。パッドやオムツは状況に応じ選択している。	排せつパターンの確認やチェックをし、誘導している。夜間、リハビリパンツを使用しているが、日中はトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無についてはトイレから出て来られた時に確認し、間隔を把握し対応する。主に水分補給や緩下剤の調整で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	完全個室として入浴回数や時間はできるだけ、ご本人の意向に添うように支援している。	回数や入浴時間は、なるべく本人の希望を取り、介助者と会話をしながら、入浴が楽しめるように気配りをしている。プライバシーを守りながら入浴ができるよう介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝はご本人の意向に添うように支援。不眠時はホールで過ごしていただき、昼夜逆転予防の為、日中はなるべく臥床されないように体操やレクに参加してもらい、生活のリズムをつけられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事書は薬箱に入れて把握しやすいようにしている。薬のセットは利用者毎に1週間分ずつ分けている。内服時は氏名・日付・時間を声だして確認し、利用者が飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々に応じた役割を持っていただくようにしており、負担にならないようにしている。利用者によって重なる事がある為、上手くスライドさせて不快感を感じられないように支援している。利用者に合わせゲーム・歌唱・散歩・ドライブなど実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者各々に応じ買い物・ドライブ・散歩を実施している。行事として利用者全員の外出を企画し、福祉バスで博物館に出かけた。また、美術館・公園の花見・夕食を実施した。	外出が一部のみに限ることのないように、なるべく本人の希望を取り、買い物やホーム周辺の散歩の回数を増やしている。家族と外出時の食事を受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される方は、ご家族より一定金額を預かって管理している。買い物などで支払いを本人にしてもらったりする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を1名持参されているが、自力でかける事が出来ない場合は援助している。家族に連絡して欲しいと言う希望がある場合は、家族に許可をもらい実施する事もあるが、希望される方は少ない。手紙は勧めるが書かれない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を最優先に廊下やホールに物を置かないようにしている。季節の花や装飾品はわかりやすい物を手作りで飾り、季節感を感じてもらっている。日中、掃除を利用者と毎日実施、夜間は床やトイレ掃除を実施、トイレは汚染時はその都度実施している。	明るく広いリビングには静かに唱歌が流れ、卓上の野花で季節を表現してある。壁にも紙などでできた花や果物が作製され、飾られている。床やトイレは、利用者と職員で毎日清掃し、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・椅子に座られる方と一定場所が決まっている方、その都度座る場所が違う方といる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物を持参して頂いたり、写真やテレビなど馴染の物を持参してもらっている。居室は換気や室温に注意し、床掃除を毎日行い、衛生面にも留意している。	清掃の行き届いた部屋に本人の気に入った写真、絵、小道具が飾られ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室はフルネームで表示しご本人の写真を飾っている。トイレや浴室は文字と飾りで表示している。廊下やトイレに手すりを設置している。		